

## 広がり始めた家事サポート報告

この事業は費用の一部をみなさんからの寄付による補助で  
利用者の方々の負担軽減が実現しています。

モニター利用から本格稼働を開始した2020…急遽利用が続いています。支援者の人材も必要になり、一定の研修を経て現場に入っただき、アドバイザー（株式会社 マイユティックス 代表 濱脇文子さん）の助言を受けながら、頑張っただいています。当たり前のことではあるのですが、いまのところ大きな問題や事故は起きていません。このことは、未来に向けて歩いていくために一番ありがたいです。いままでご利用いただいた方の利用内容を書き出してみました。「沐浴」が思いのほか少ないですが、ファミサポとの組み合わせで、ファミサポのできる範囲内の沐浴補助を利用される方もいます。皆さんにとって必要な支援、ご要望の多い支援を中心に今後もスキルアップを図っていこうと思います。



### 依頼された内容

料理：8名      沐浴：1名      買物：3名

掃除（居室）：7名      掃除（浴室）2名

洗濯：2名      洗濯物干し・たたみ：3名

アイロン：1名

その他：食器洗い・トイレ掃除・ゴミ出し・簡単な家具組み立て

ファミサポ（子どもの見守り他との併用）：3名



### みなさんからのご寄付について

今年度、産前産後サポートの応援の寄付の活用について、今後もまず第一に、ご利用者の皆さんの負担軽減に活用させていただきます。さらに、今後高まるニーズへの対応のため人材を育む研修費の一部補助も検討したいと思います。家事サポートは支援であると同時に、これからの子育て家庭に子育てや暮らしの文化を伝える使命のある事業です。技術だけでなく支援のマインドも高めていけるよう、研修内容の検討も含め、助言ご意見を募集いたします。また理事会での検討して決定いたします。

いらすとでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」

ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

# 当事者性に気づくってこ～んなかんじ

by 蓮すけ



各自治体で子育て支援策が展開を始めたころ、社会全体、関係者、政策担当者にどれだけの危機感があっただろうか。子育ての問題の根の深さ（社会や歴史などに影響されている）を探るよりも、必要な支援やサービスを対処療法的に作り出してきた。だから今も子育ての問題は歴然と私たちの社会の問題で有り続けていると思っている。

とはいえ、少子化対策が始まった頃、当時佐世保市では市長自らが、子育て当事者だった私たちと話し、感覚の違いを超えて理解し応援したい、子育てに風を通し、子どもが育つ街にしたいというお気持ちだった。市の職員も、市民との議論の場に積極的に出向き当事者の声を反映した政策決定をめざしていた。たとえ会議が夜間でも市民も手弁当で参加した。専門職・行政マン、さまざまな市民が立場の違いを超えて「子育てをなんとかしたい」と本気で話し合えた経験は貴重だった。私はいつも空気を読む必要もなく素直に意見を述べた。喧嘩のようなやりとりもあった。イラスト中の喧嘩した女性職員の方とは、結果理解しあうことができ長くお世話になった。

私は子どもや子育てに苦手感が今もある。でも、だからこそ母が母になるためには支援が必要だと発信し続けた。そして多くの方に受け止めていただきお世話になった。今、私は子育て当事者の言葉を大事にしたい。当事者の感覚が社会を動かすべきだと思うし、応援したい。それが私ができる「恩送り」。話し合うことは喧嘩じゃない。異見を戦わせることは理解の第一歩だと今も思っている。

守永

## みなさんに信頼していただける組織になりたい！

### 法人として「組織のベーシック評価」を受けました

2019秋、理事長より「組織評価」を受けたいとの話があった。気にはなりつつも日々の業務に追われ、取り掛かったのは結局年が明けてからとなった。

「組織評価」とは、非営利組織評価センターという団体が、組織運営について適正に評価・公開することを通して、NPOと支援者をサポートし、支援の拡大に役立つものとして国内初の全国規模で展開する制度。

我々が受けたのは「組織評価」の基本「ベーシック評価」で、20項目に対応する書類を一つずつ探していく地道な作業。これまで自分たちが作ってきた書類を探すだけなので単純な作業ではあるが、パソコンや倉庫の中から、最適な書類を見つけ出すのがなかなか大変。事業のまとめはそれぞれしているものの、管理場所は意外と雑。各自の記憶も、済んだ事業については曖昧になってしまっている。（これも課題…）

申請準備を行う過程では、自分たちに足りないものが明確になり、特にホームページ項目（所在地、事業・会計報告、理事名簿、プライバシーポリシーなど）は申請内容に照らし逐一公開をし、自ずとホームページもしっかりしたものになっていった。併せて、一人のスタッフに任せっきりだった管理を再認識、結果ワークシェアリングにもつながった。

自分の判断で書類を探し出し、一覽にして理事長と確認。不備なものがあるのは覚悟で申請へ。ちょうど新型コロナ感染が拡大し始めた頃でテレワーク導入時期と重なり、書類はメールのみのやり取り。評価センターからは即日のお返事をいただくも、当方が出勤してのメール確認となり対応が遅滞しがちで迷惑をかけたことだと思う。

約2か月で評価結果の回答があり、僅か2項目が基準を満たしていなかった。自分たちがやってきたことは間違いなかったと感じほっととした。（初回で全部クリアできれば良かったのだろうが…）

手続きが困難だと予想していた未基準の「登記」については、日頃お世話になっている専門職の方に快く引き受けていただき、すんなり完了となり感謝の気持ちしかない。

また、評価を受けて嬉しかったことは、合格をいただいた項目に関しても丁寧なアドバイスをいただいたこと。例えば、「理事会議事録」は定款に基づいた文書作成のご提案、「雇用契約」については明示事項のご提示をいただき、どちらも今年度より反映させることができた。他には、貸借対照表の公告。こちらも定款に定めがあるところのご指摘をいただき、即刻掲示をした次第。自分たちが定款をどれだけ蔑ろにしてきたか改めて猛省した。

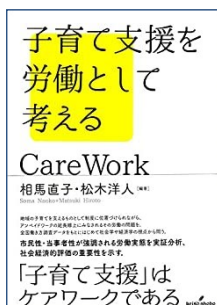
こういった詳細なアドバイスをいただいたことが、これからの我々の活動の財産になると思う。評価を受けたことで、なかなか理解されにくいNPOの活動にご理解やご賛同いただけるのではないかと期待もしている。これからのNPOは思いだけで事業を続けるのは難しいと、外部の方々と会話をする中で常々感じてきた。客観的評価を得ることと共に、当事者だけではなく第三者の皆さんに信頼、応援してもらえるよう努力を続けていきたい。

なお、残り2項目については、現在再評価中。結果については、今後お知らせできればと思っている。

## ●これからのイベントや講座の予定

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	8月24日(月) 14:00~15:00	ボランティア センター別館	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
おもちゃ図書館	8月18日(火) 10:00頃から	ファミサポ事務所	参加費無料

## ●書籍紹介●



少子化対策以降に制度化されてきた一時保育やひろば事業といった「地域子育て支援」。全国働き方調査データをもとに、活動に従事する人々の労働実態に基づいた分析。制度に位置づけられながら、アンペイドワークの延長線上にみなされるその労働の問題を、社会学や経済学の視点から問うはじめての学術書。日頃支援の現場でこの仕事の重要性を感じるが、あまりに脆弱な立場であることの矛盾。担う責任は重く、ゆえに持続したいマインドや倫理観、哲学などが決して評価の対象にならない虚しさ。人を育てる家庭の支援、ケアワークは労働です。



あの事件が起きた直後、偶然本書の著者と出会い、何度か会話を重ねた。まだ若い記者さんだった。あの時からずっと事件に向き合う続けているのだと思うと胸が熱くなる。前作「謝るなら、いつでもおいで」は発刊後すぐに手にとった。そして今回のこの本は事件後から今大人になっておられる被害者のごきょうだいが、この間何を考え、どう生きてこられたかが書かれています。読後、述べる言葉が見つかりませんが、私は事件を忘れない、と改めて誓います。

### 編集後記

コロナ感染拡大のなか、洋裁と発酵がマイブーム。洋裁は手作りマスクが発発点、下手の横好きでチクチク手縫いで夜なべ仕事。発酵は感染予防の自己努力…多様な諸説によるこんで振り回されて暮らしの楽しみ増えました。転んでも、ただ起きないぞ!と思う日々。

### NPO法人ちいきのなかま



入会・会員(正・賛助)会員継続のご案内  
**正会員**: 総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000  
**賛助会員**: 総会議決権なし 年会費¥3,000  
**主な特典**: 各種事業会員特別料金にてご優待  
**連絡先** NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19

携帯 090-9498-3608

E-mail: chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp